

1. 挨拶

まずはじめに、この場にお集まりの皆様にご挨拶を申し上げたいと思います。日本から、そしてルーマニアからいらしたご来賓の方々、ハンス・ピーチさんのご両親、ご来場者の皆さん、そして、もちろん、シュテフィ・ヘープザッカーさんと大会運営スタッフの皆さん、開催地の実行委員長カリ・バルドゥインさん、そして特に若い参加者の皆さん、ようこそいらっしゃいました。日本語で申しますと、「べるりんニヨウコソイラッシャイマシタ」。

2. 青少年の碁

青少年の碁の歴史は、ここ数年に始まったことではありません。私たちの go4school の最年長のメンバーであるハイネ教授によれば、すでに70年代に、ベルリンで学校における囲碁講座が行われていますし、現在も、シュテファン・ブーディヒさんやホルスト・ティムさんら、草の根の普及活動を長年にわたり継続的に行っている方々がいらっしゃいます。1997年から98年にかけて、重野由紀さんと私が、はじめて広範囲にわたって、学校での囲碁指導をしてみわり、ドイツの28都市、44の学校で、2200名以上の子供たちに囲碁を教えました。この時以来、囲碁普及を続けていらっしゃる方もいらっしゃいますし、青少年活動を一層活発になさっている方もいらっしゃいます。つい最近になって、新しく加わった方もいらっしゃいます。ドイツ囲碁連盟が所有する普及用囲碁セットの数から推測するに、約48の囲碁教室があると思われます。幸いにも、青少年の囲碁は、インターネットを通じて、そして、とりわけ「ヒカル碁」を通じて、再び飛躍的な広がりを見せています。（「ヒカル碁」は、昨年11月からドイツ語版の雑誌連載が始まり、今年7月から単行本も出ています。）

たくさんの熱心な囲碁普及指導者たちが、ドイツ囲碁連盟において（トービナス・ベルベンさんの素晴らしい運営による、ドイツ囲碁新聞やドイツ囲碁連盟ホームページといったメディアが役立っています）、また個別の目的を持った活動において（たとえば、クリストフ・ゲルラッハさんが行っている、ドイツマンガ大会における囲碁ブースの出展、ホルスト・ティムさんによるキッズ・アンド・ティーンズ・カップおよび、彼の模範的大会運営によってケルンで開催されたヨーロッパ青少年囲碁選手権など）、さらに囲碁熱を高めようと努力しています。また、ベンヤミン・トイバーさんとフランツ・ヨーゼフ・ディックフートさんによる院生教室、そして特に go4school の創設などの新しいプロジェクトは、未来に希望を抱かせるものです。今日では、少なからぬ囲碁大会では、子供大会も同時開催されています。

囲碁を少なくとも何度かやってみたことがあり、おもしろかったという記憶を持っている青少年は、慎重に見積もって、少なくとも10000人はいるのではないかと思います。その中でも特に熱心な48人の子供たちが、今日ここでハンス・ピーチをしのぶこのドイツ学校囲碁団体戦に参加します。君たちがこの趣味のすばらしさをとても熱心に私たちと分かち合い、今日ここで碁を打つために、何百キロもの遠いところからはるばるやってきたことを、私たち大人は、感謝したいと思います。私たちは、このことを本当に素晴らしいと思います。

3. go4school の設立

青少年の碁をさらに発展させるためには、片手間に普及活動を行うだけでは十分ではありません。積極的に活動する指導者が多く必要です。最近では、職業的な囲碁指導員と呼ばれるでもいいような人もでてきました。彼らの報酬はごくわずかですが、それでも囲碁指導によって生計を立てようと努力しているからです。昨年、このような試みをよいタイミングで強化するために、柔軟な法的枠組みが早急に必要とされました。将来的には、計画を支援するための外からの財政的資金も当然必要になってきます。

さしあたり、外からの支援による青少年活動のための法的枠組みを作るために、今年1月9日に、エッセンにおいて、12人の組織者が集まり、青少年囲碁普及支援のための公益団体である、社団法人 go4school を設立しました。会則を役所に提出した後、2004年2月17日に、まず公益団体としての認可を受けました。

4. 計画

公益団体としての設立と認可を受け、go4school は、現在42人の会員を有しています。会は立ち上げられ、ホームページもできました。銀行口座が開かれ、会費の徴収もなされました。会員の管理は、会計主任のカール・シャイトラーさんが担当します。数件の小口の募金もありました。一人のプロ棋士の航空運賃が支出されました。そして、6月には、ドイツ囲碁連盟も go4school の支援会員になり、ハンス・ピーチ・メモリアル大会を2004年以降段階的に、go4school の運営に委ねることを決定しました。その後さらに活動は続けられ、明知（ミョンジ）大学の囲碁学科のある韓国人の囲碁普及ツアーへの子供たちの参加支援に資金が支出されました。カリ・バルドゥインさんがベルリンのデパートと行った企画によって、小口の募金を受けることができました。カッセル、ドルトムント、フライブルク、ドレスデン、ケルン、ジークブルク、ブレーメンなどの都市で、学校での囲碁の課外活動に関心を持っている囲碁指導者たちに対する相談と援助も集中的になされました。大会の場で会員を募り、まだ経験の浅い囲碁指導者たちに、彼らの関心事や苦労も親身に

聞いてもらえるという感情を持ってもらうということも、重要な活動でした。また、5月以降、私自身、実践を通して学校における囲碁のリファイナンスの可能性と限界をテストするために、近隣の4つの学校で、有料の囲碁講座のモデル計画の試みを行いました。

私は会の設立のために、会の内外で、個人的に事前の話し合いを行いました。外部のいくつかの団体をあげれば、税務署、連邦教育省、日本棋院、ケルンの日本文化事業センター、デュッセルドルフの行政幹部会、私の住む町の学校管理局と青少年局などです。容易に推察されるように、そのためにはかなりの私的な出費が必要ですし、拒否とさまざまな衝突に負けずに滞りなく活動を推進させるための、強いやる気が必要です。

5. 会員、財政、ハンス・ピーチ・メモリアル大会の未来

2004年には、社団法人 go4school は、42人の会員を有しています。ほとんど全てが、個人的な呼びかけによる会員です。一人の会員のよびかけで、二人の青少年が会員になりました。自身はほとんど囲碁をなさらないのに、私たちの活動を重要だと認めて会員になってくださった方も一人いらっしゃいます。また、4人の日本人の会員もいらっしゃいます。もしこの会が、ハンス・ピーチ・メモリアル大会以外に資金を支出しないのであれば、今年の大会の支出のほとんど全てをまかなうことができます。ピーチ氏とドイツ囲碁連盟は、2003年の大会における、緊急を要する未決済の費用をまかなうことに協力してくださいました。私たちは、3、4件の小口の募金を集めることができましたし、先週には、ある保険会社が、2005年以降、ミニスポンサーになって、会の運営費の支援に毎年参加することを約束してくださいました。このようなことからして、会は一見したところなかなかうまくいっているという感じを持たれるかもしれません。

しかし、ハンス・ピーチ・メモリアル大会だけでなく、会やいくつかの小さな計画の基本的な経費をまかなうためには、約70人の会員が必要です。さらに、経費以外の、こまごまとした出費、たとえば手伝いに来てくれた人たちのための食事の準備、プロ棋士の週末の謝礼なども払うとすると、さらに、30人の会員を必要とするでしょう。また、場合によってはパートタイム賃金並でも報酬を払うべき指導者や運営者に対して、もし本当に報酬を払うとなると、理論的には、一人あたりさらに100人の会員が必要になってきます。

このような事情を述べるのは、青少年の囲碁活動をその端緒において安定させるために、たとえば、このたび導入された、放課後も学校で生徒の指導を行うための資金のような、外からの資金を囲碁のために獲得することにも、私たちが少ない時間をさくべきだと言うことに注意を喚起したいからです。例を挙げますと、go4school は、いくつかの部分的計画をより大規模に行うために、ある青少年財団に応募してみました。願書は9月1日に提出

され、結果の通知は1月はじめになされる予定です。うまくいく確率は統計的には2%とかなり低いのですが、やってみないことには成功ありません。また、ある地域の計画のために、別の財団に個人的に応募する予定です。ドイツには約1000の財団があるといわれています。ですから私は、私たちの応募の試みがモデルケースとなって将来これに倣って応募する人が増えることを希望しています。そして、私たちの仕事を支援する人がすこしでも増えることを願っています。何事もはじめはそうですが、困難な、しかし良いスタートを切ることができたと思います。go4schoolがこの調子で行けば、少なくともこの学校囲碁団体戦を、(今日始めて言いますが)2007年まで、そして、もしかしたら、さらに長期にわたって開催できるかもしれないということ、今日皆さんにお約束できると思います。そういうことで、私は今、心から、皆さんの対局のために、「おねがいします」と言いたい気持ちです。